

古代からの一大国

いき
壱岐



博多港発 高速船で行く！

壱岐(いき)の島旅 1~2日間

博多港
⇄
壱岐
高速船
スケジュール

博多港→芦辺港・郷ノ浦港		
①	J F 111便	博多 (08:00) →郷ノ浦 (09:10)
②	J F 113便	博多 (10:30) →芦辺 (11:35)
③	J F 119号	博多 (15:45) →郷ノ浦 (16:55)
④	J F 118号	博多 (16:55) →芦辺 (18:00)

芦辺港・郷ノ浦港→博多港		
⑤	J F 121号	芦辺 (07:55) →博多 (09:00)
⑥	J F 122号	郷ノ浦 (09:25) →博多 (10:35)
⑦	J F 124号	芦辺 (14:25) →博多 (15:30)
⑧	J F 129号	郷ノ浦 (17:10) →博多 (18:20)

料金等細かな詳細はお問い合わせ下さい。

現在店舗営業は休業しておりますので
メール✉又はFAX☎にてお願いします。

住所:〒110-0016 東京都台東区台東4-30-8 宮地ビル本館7F
ホームページ <http://www.handmadetour.jp>



ハンドメイドツアー

mail : tour@handmadetour.jp

FAX : 03-5812-7085

壱岐の歴史・遺跡に触れる

歴史・遺跡関連の見どころ



対馬に次いで、大陸・朝鮮半島に近かった壱岐の歴史は古く、「魏志倭人伝」では「一大国」、「隋書」など他の文献では「一支国」として登場しています。対馬と同様、良くも悪くも大陸の影響を真っ先に受けた壱岐ですが、対馬との大きな違いの1つは農耕に適した平地の広さ。稲作によって栄え、鉄器も数多く発掘されています。稲作、鉄器といった大陸の文明文化は、朝鮮半島から対馬を経て、この壱岐に伝わり、日本列島各地へと広がっていったと考えられています。当時の壱岐は、まさに国際交易の要だったのです。

● 一支国（いきこく）博物館

壱岐には遺跡が、古墳を含めて分かっているだけでも482箇所あります。その他の文献、史料を合わせて、古代から近世に至る壱岐の歴史が俯瞰的に観ることができます。



写真提供: 長崎県観光連盟

● 聖母宮

壱岐の北側、勝本港近く、奈良時代(717年)に創建され、1300年以上の歴史深い神社です。西暦で200年頃に摂政となった皇后・神功皇后が祀られています。



● 原ノ辻（はらのつじ）遺跡

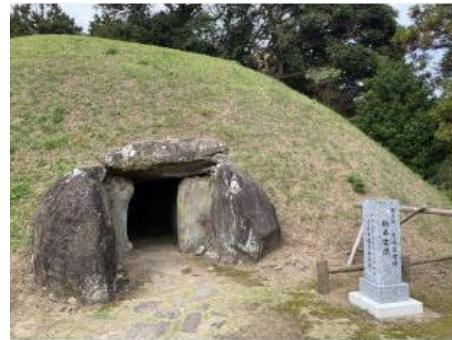
壱岐はもちろん日本を代表すると言っても過言ではない弥生時代の重要遺跡です。弥生時代の遺跡で国の特別史跡となっています。範囲も広大で、日本最古の船着き場の跡や、鉄器類、中国の貨幣など数多くの品が出土されており、住居跡からも交易によって栄えていたことが伺え、魏志倭人伝に書かれた「一支国（一大国）」の王都であると特定されています。



写真提供: 長崎県観光連盟

● 壱岐の古墳群

壱岐島には約280基の古墳が見つかり、そのうち主要6基が国の史跡に登録されています。最も古いのが「対馬塚古墳」で6世紀後半の前方後円墳。続く「双六古墳」も長崎県では最大となる前方後円墳(長さ91m)です。「掛木古墳」は内部見学も可能で、隣接する「壱岐風土記の丘」に古墳館もあり親しみやすくなっています。



掛木古墳

● 松永記念館

壱岐出身で「日本の電気王」「電力の鬼」とも称された松永安左衛門氏の記念館。生家跡にあり、生前愛用した所持品、後藤新平氏や犬養毅首相からの書などを展示。また民俗資料を集めた「ふるさと資料館」も併設されています。



壱岐のおすすめ観光地

九州から近い壱岐ですが、海の風景は一変。各所に白い砂浜が広がり、無人島の辰の島に行くと、エメラルドグリーンの光景が広がります。開放感あふれる離島ならではの海の光景に心癒されます。

●壱岐のビーチ

壱岐島のビーチは、天然の白砂。壱岐には島内には30以上のビーチが点在しています。沖縄などの白砂はサンゴでできているのに対して、壱岐の白砂は全国的にも珍しい貝殻が砕けてできており、裸足で歩いても痛くないほどサラサラのパウダー状です。



写真提供: 長崎県観光連盟

●岳の辻展望台

標高212.8m。島内最高峰の岳ノ辻山頂に設けられた展望台です。

玄界灘に囲まれた島全体がぐるりと見渡せる他、晴れた日には九州や対馬まで一望できます。



写真提供: 長崎県観光連盟

●辰ノ島クルージング

壱岐の最北端にある無人島「辰ノ島」へ！

壱岐島北端の勝本港よりスタートし、迫力ある断崖絶壁の岩島や透明感抜群のエメラルドな海を満喫できるクルージングです。約40分の「クルージングコース」のほかに約1時間40分のブチトレッキング等が楽しめる「上陸コース」があります。



●猿岩

壱岐の西側、黒崎半島の先端にある「猿岩」。猿が横を向いている姿に見えます。神話の舞台にもなっていて壱岐島が流れてしまわれぬよう神様が建てた「八本柱」の一つとも言われています。岩越に沈む夕陽の光景も人気があります。



●鬼の足跡

地元では「大鬼が鯨をすくい捕るために踏ん張ってできた足跡」と伝わる景勝地で、2013年に、日本百名洞に選ばれました。



写真提供: 長崎県観光連盟

●はらほげ地蔵

満潮になると胸まで海に浸かるお地蔵さん。地元では遭難した海女さんや鯨の供養のために祀られていると伝わります。ちなみに「はらほげ地蔵」の名前の由来は「お地蔵さんの腹が丸くえがられているため」とされています。



彦岐の神社 & グルメ編

神社巡り

島内に150以上の神社がある彦岐。古来より大陸の脅威とも向き合いつつ、自然界の厳しさと恵みを感じながら生きてきた彦岐の人たちにとって、おのずと「神」への畏敬と感謝の念が生まれてきたのでしょう。



写真提供: 長崎県観光連盟

● 海から参道が現れる 「小島神社」

別名「彦岐のモンサンミッシェル」。古代より、王都・原の辻を訪れる船が往き来していたと考えられる内海湾に、この「小島」があります。島全体が神社と考えられ、干潮時の数時間だけ海から参道が現れ、歩いて参拝することができます。



写真提供: 長崎県観光連盟

● 伝統と格式の「住吉神社」

一支国の王都・原の辻で栄えた農耕文化を育んだ幡鉾川の源流域にあたり、古代から水の湧き出る神聖な場所とされてきました。平安から室町時代の貴重な文化財が多数保存され、境内の神池からは、非常に貴重な神鏡17面が発見されています。



● 300体以上の石猿がお出迎え 「男嶽（おんだけ）神社」

明治時代までは山全体が御神体とされていた男岳山の山頂にある神社。導きの神様とされる「猿田彦命（サルタヒコノミコト）」が祀られており、願いが叶った参拝者が、お礼に猿の石像を奉納し、その数は300体以上になります。



● 全国の月讀神社の総本社 「月讀（つきよみ）神社」

月の神である月讀命（つきよみのみこと）を祀る月讀神社。趣のある鳥居をめぐり、木が鬱蒼と茂る森の中、石段を登っていった先に社があります。暦・潮の干満など月に纏わる全てを司ると考えられ、航海での安全が祈願されたようです。

● インパクトMAX! 「塞（さい）神社」

巨大なシンボル(?)が印象的な神社。良縁、安産、夫婦和合、性の病、子供の守護などの奇岩を訪れる人が多いようです。



彦岐のグルメ

玄界灘にもまれた身の引き締まったイカやブリなどの刺身。甘くとろけるようなウニ。そして日本一にも輝く彦岐牛。麦焼酎も発祥の地なんだとか…。

● 彦岐のウニ

濃厚な甘みが特徴の彦岐のウニ。ウニ漁が行われるのは4月中旬から10月中旬頃。約300人の海女・海士が、今も素潜りで漁をしています。



● 彦岐牛

年間900頭ほどしか出荷されていない「彦岐牛」ですが、和牛のオリンピック「全国和牛能力共進会」の「肉部門」で日本一を獲得したこともある高品質な和牛なんです。



● 彦岐焼酎

麦焼酎は彦岐が発祥とされ、麦の香ばしい香りと麴の天然の甘みが絡み合い、独特の味わいが生まれます。島内の焼酎蔵では工場見学や試飲を楽しむことができます。



写真提供: 長崎県観光連盟